



仏法領

ぶつぽうりょう

第81号

発行：真宗大谷派
念信寺
 〒824-0202
 福岡県京都郡みやこ町犀川上高屋761
 ☎ 0930-42-0329
 Fax 0930-42-0502
 ホームページ
 nenshinji.org



秋のお彼岸法要
 9月27日(日)
 ～28日(月)
 勤行 正信偈念仏和讃
 法話 瓜生 崇師
うりゆう たかし
 (滋賀県東近江市玄照寺住職)
 どうぞお参りください
 ※詳しくは第4面をご覧ください

「日々の暮らし」
 毎日、家族と暮らせる喜び
 毎日、あいさつが出来る喜び
 毎日、ご飯が食べられる喜び
 私の暮らしは、幸せでいっぱいだ
 当たり前を感謝し
 暮らしを楽しもう
 あなたがいる
 日々の暮らしが
 私を幸せにしている
 (写真・文 大迫光浩)



日々の営み

コロナウイルス以降、最近では近親者での葬儀ばかりです。お見送りできない無念さが残る方も多いでしょう。しかし、いいこともあります。

華美にならないということ。世間体をあまり気にしないのでいいので、飾らず、肉親の死に向き合えることです。

死者は厳粛なすがたをしています。その人の生涯はどんな意味があったのか。言葉にはならなくても、遺体は抜け殻でなく、生き生きと語っています。見送る人にも生まれて生きることを問いかけてきます。

そこから意味を言葉にして抽出してしまうのではなく、語りかけてくる事柄そのものをいただくしかありません。

そこに日々の営みのヒントがあります。看病や葬儀、人を見送るということ、考えることまでも他人任せになって、大事なことを見失っていないでしょうか。

四十九日法要までの中陰の期間は自分をお内仏の前に据えることを教わる時間です。

如来様からの大事な問いかけをいただくところに日々の営みが始まります。どんよりとした自分中心の意識より、もっと違う位相のもので。

南無阿弥陀仏



本堂後ろの柱には、作業時にブヨを追いかける火縄(蚊取り線香のようなもの)が未だかかっています。これも同行の作。